
令和3年度

地域活性化事業交付金

活動事例集



相模原市 南区

目 次

地域活性化事業交付金とは	1
・ 麻溝の地域遺産普及啓発事業	2
・ 新磯健康づくりポイント事業（AKP48）	3
・ 相武台下駅前イルミネーション事業	4
・ 桜台美術館運営に関する事業	5
・ 中学校と連携した自転車安全教室	6
・ 双葉小学校児童と連携した地下道環境美化活動	7
・ コロナを乗り越えようイルミネーション事業	8
・ 相武台ウィンターイルミネーション事業	9
・ 相武台地区子育てマップ作成事業	10

地域活性化事業交付金とは

□地域活性化事業交付金とは、より多くの市民の参加と協働による地域の活性化を目指し、本市のまちづくりを進めてきた22の地区で展開される市民による自主的な事業に対して交付される交付金です。

□対象事業

- ・地域の防災・防犯に関する事業
- ・地域の保健・健康づくりの増進に関する事業
- ・地域福祉の増進に関する事業
- ・産業や観光の振興に関する事業
- ・環境の保護・保全に関する事業
- ・青少年の健全育成に関する事業
- ・地域の文化・伝統の振興に関する事業
- ・生涯学習に関する事業
- ・地域及び地域活動の情報発信及び広報に関する事業
- ・区が推進する重点事業
- ・その他地域のコミュニティづくりを目的とし、区長が特に認める事業

□優先的な交付対象事業

- ・自治会への加入促進
- ・地域における公共的な活動の担い手育成
- ・公共的な活動への参加者増加
- ・地域の公共的な活動団体間の連携強化
- ・まちづくり会議が提示した地域課題の解決

□交付対象とならない事業

- ・政治活動、宗教活動又は営利活動を目的とする事業
- ・交付申請を行う年度において、相模原市が実施する他の補助制度等の対象となる事業
- ・政策提案又は講座等の開催を主たる目的とする事業
- ・調査、研究を主たる目的とする事業。ただし、地域の活性化に資する事業に繋がる計画があるものを除く。
- ・第三者への事業促進を求める事業
- ・前各号に掲げるもののほか、区長が適当でないと認める事業

□交付金の申請者は、原則として交付金の趣旨に合致する事業を行う5人以上の構成員で組織される団体とします。申請にあたっては、事業を実施する地区のまちづくりセンターへご相談ください。

□当該年度の事業実施期間は、4月1日から翌年3月末とします。また、同一の事業に継続して交付する場合については、3年を限度とします。

□交付金は、次の経費を交付対象とし、その交付率は10分の10以内とします。

- ・事業に要する消耗品費、郵便代等の通信費、印刷製本費等
- ・事業を行う上で必要な食糧費（交付対象者の構成員に対するものを除く。）、備品購入費、施設使用料、備品借上料等
- ・事業を行う上で必要な施設等の光熱水費等
- ・事業を行う上で必要な委託費等
- ・イベント等の開催時に掛ける保険料、警備費等
- ・講演会等の講師に対する報償費
- ・研修会の旅費等、研修に要する経費（交付対象者の構成員個人の資質向上に対するものを除く。）
- ・その他事業遂行に必要な経費であって区長が必要と認めるもの

※備品（物品等で1件1万円以上の財産）にかかる経費の交付率は、対象経費の3分の2以内となります。

1 背景と目的

麻溝地区の人たちが大切にしてきた貴重な地域遺産（麻溝地区の歴史・文化遺産、自然、景観など）を適切に保存していくとともに、地域住民をはじめ多くの人にその魅力を知ってもらうことにより、地域に対する愛着につながり、もって地域の振興やコミュニティの維持・発展に資する取組とするもの。



2 事業内容と実績

令和3年度は、「旧麻溝村開墾記念碑」の保存と普及啓発を図るための環境づくりを中心として事業を実施した。

○令和3年3月に移設・保存が実現した「旧麻溝村開墾記念碑」の普及啓発を図るため、周辺環境の整備、案内看板の設置、清掃活動のほか、啓発用パンフレットの作成等を行った。

○令和3年11月20日（土）に麻溝観光協会等との共催により探訪ハイキング「石塔と川が語る～麻溝の魅力再発見！」を開催（参加者14名）し、「旧麻溝村開墾記念碑」をはじめとした地域遺産の普及啓発に努めた。

○国土地理院の「自然災害伝承碑」に登録された「関東大震災崖崩れ復興記念碑」の案内看板を作成し、令和3年12月に設置した。

3 成果と今後の展望

「旧麻溝村開墾記念碑」の保存と普及啓発を図るため作成したパンフレットは、戦時中の相模原台地の変遷がよく纏められており、この貴重な遺産を将来にわたって保存し、地域づくりの資源として活用できる環境が整ったことは大きな意味がある。

また、碑文に書かれた内容は本市中学校の社会科副読本「私たちの相模原」に掲載されていることから、地区内の小・中学校にパンフレットを配布し、児童・生徒の地域学習に役立ててもらうことを想定している。

今後の取組みとして、小中学校や自治会等へのパンフレット配布を予定しており、地域に対する関心を深めるきっかけとなるよう、「探訪ハイキング」など関連団体との合同事業による相乗効果を高めるとともに、「麻溝の地域遺産を未来につなぐ会」の事業継続及び発展を期待したい。

新磯地区介護保険事業所等連絡会

1 背景と目的

新磯地区は、坂道が多く、公共交通機関の便が良くないという地域性がある。新磯地区地域ケア会議地域づくり部会で実施した外出に関する調査からも、徒歩で行動している高齢者が多く、外出中に休憩できる場所を希望する声が多数あがった。また、高齢者だけでなく多くの方が身近な地域の資源を知らない。

新磯地区の介護保険事業所等で取り組む徒歩での外出をサポートする情報を発信することで、誰もが安心して外出できるようにするとともに、ポイントラリーの実施を通じて、こどもから高齢者まで新磯地区の様々な人達の健康づくりに役立ながら、地域資源を知ってもらうことを目的とする。

2 事業内容と実績

高齢者をはじめとして誰もが安心して外出できるような介護保険事業所等で取り組む徒歩での外出をサポートする情報を発信する持ち歩き用マップ（新磯健康づくりポイントカード）を8,000枚作成した。

こどもから高齢者まで新磯地区の様々な人達の健康づくりに役立ててもらったポイントラリーを実施した。



3 成果と今後の展望

コロナ禍で外出が制限された中、子供から高齢者までの新磯地区の様々な人達がポイントラリーに参加したことで、幅広い年代の地域住民の健康増進に寄与することができた。

参加者の健康増進に寄与することができたとともに、参加者へ地域資源（協力事業者31店舗）を周知することにつながり、地域にとって大変意義のある事業になった。

今後は自主財源の確保について検討を行い、末永く事業が継続ようにしていきたい。

1 背景と目的

新磯地区においては、4月「相模川芝ざくらまつり」、5月「相模の大凧まつり」、8月「相模川帆かけ舟実演会」、11月「勝坂遺跡縄文まつり」、「ざる菊花見会」、3月「新磯桜まつり」と各種の事業が行われてきていたが、令和2年度はすべて中止又は規模を縮小しての開催となり、地域の活力が失われつつある。

令和元年度に初めて実施した、「相武台下駅前イルミネーション事業」を今年度も行うことで、活性化と地域を巻き込んだ新しい人の流れづくりに繋がる観光事業を実施することが必要である。

これまで事業の開催がなかった冬季に、相武台下駅前において明るさと賑わいを創出するとともに、地区内の観光をPRすることで新たな観光客の誘致につなげることを目的とする。

2 事業内容と実績

相武台下駅前イチョウの木等へのイルミネーションの設置・点灯及び跨線橋の壁面に新磯地区観光写真の展示を実施する。

令和3年11月27日～令和4年2月18日の間、相武台下駅前イチョウの木等へのイルミネーション点灯及び跨線橋の壁面に新磯地区観光写真の展示を行った。



3 成果と今後の展望

事業実施にあたり、駅構内の使用や銀杏の木の剪定等 JR との調整事項があったが、JR の協力もあり、スムーズに事業実施することができた。また、昨年度はコロナ禍により、点灯式イベントの中止や点灯時間を短縮するなどしたが、今年度はコロナウイルス感染対策を徹底した上で、点灯式イベントを開催することができた。

今後も地域の特色を生かしつつ、明るさと賑わいを創出するとともに観光をPRする事業として、継続していきたい。

1 背景と目的

桜台美術館は、桜台小学校の空き教室だった多目的ルームを利用し、児童の豊かな感性を育てること、また、一般公開を通じた地域住民の文化活動や交流による町おこしの実現を図ることを目的としている。

令和2年度に引き続き申請するもので、前年度は緊急事態宣言の発令により、美術館として十分な活動が出来なかったが、もともと南区には美術作品を常設する美術館がなく、また地域のアマチュア芸術家の発表の場がないため、近隣住民からも期待されている。

2 事業内容と実績

令和3年度は年間で10回の展示を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の蔓延が収束せず、結果として主だった主催団体を統合した合同展として11月～12月の間展示を実施した。

この間、桜台小学校の児童には学年ごとに会場を訪れ鑑賞や個人ごとの評価などを行ったが、残念ながら十分な地元住民への公開やこれに伴う懇談などが実行できなかった。



3 成果と今後の展望

地域住民との交流や親睦については実行できなかったが、計画の第1である小学校児童への教育面については一部の目標を達成できた。今回この事業が新聞などで紹介されたことで、今まで以上に一般の方々に認識してもらうことができ、今後の活動において、一般公開に際しては、より多くの方々に来場してもらえるものと期待している。

中学校と連携した自転車安全教室 相模台地区自治会連合会

1 背景と目的

本地区の自転車事故は非常に多く、近年でも、大型車の左折巻き込みにより若い命が犠牲となるなど、痛ましい交通事故が発生している。

二度とこのような事故が起こらないよう、自治会連合会と地区内の小中学校で構成する「相模台地区協育ネットワーク連絡会」で協議した結果、自転車事故の防止に向け、今後、進学等で自転車に乗る機会が増える中学生に対し、教育的効果の高いスケアード・ストレイト教育技法による自転車交通安全教室を実施することを決定した。

本事業は、3か年計画で、地区内3中学校の全校生徒を対象に、授業の一環として実施することとした。令和3年度は3か年計画の3年目として、相模台中学校で実施した。

2 事業内容と実績

- 1 実施日 令和3年6月22日(火)
5、6時間目（午後1時35分から午後3時5分まで）
- 2 会場 相模台中学校 校庭
- 3 参加者 相模台中学校生徒 380名
先生 約20名
関係者20名（警察職員、スタントマン、市職員、自治会連合会長、事務局）
- 4 内容
 - (1) スタントマンによるスケアードストレイトの実施
 - (2) 相模原南警察署の交通課職員による実演・講話
 その他、事前学習（自転車マナー検定）や自転車安全教室後のアンケート調査も実施した。



3 成果と今後の展望

「若い命を守りたい」という全従事者の思いに応えるように、生徒が真剣に取り組んでくれた。本教室により、交通安全意識を高め、交通ルールを守る大切さと無謀運転の危険性を学ぶことができ、安全指導の目的は達成できた。

過去3回の事業を終え、開催する季節や会場の違い、生徒数によって留意点が見えてきた。また実施結果から期待以上に生徒への反響があったことから、今回の検結果を検証しつつ、将来的な継続の取り組みについて検討したい。

双葉小学校児童と連携した地下道環境美化活動 双葉小学校PTA

1 背景と目的

地域住民の多くが通勤、通学路として利用する大沼トンネルの壁にいたずら書きがあり、防犯上の観点から安全面が懸念されていた。落書きの無い綺麗な地下道は住民の願いでもあるため、トンネル内に子供たちの絵を飾り明るくすることで、街の美観を整え、地域の安全・安心も確保することを目的として実施する。

2 事業内容と実績

「自分たちの通学路である大沼トンネルを明るくしよう」というテーマから大沼トンネル内の壁面に、4, 5, 6 学年の計 3 作品を、タイトル及び説明文と合わせて展示した。作品の設置に先立ち、PTA・児童・地域等で連携してトンネルの壁を塗り直した。

トンネル内の展示に加え、南合同庁舎での原画展示や各種メディアの協力により、事業をPRすることが出来た。



3 成果と今後の展望

トンネルの美観による地域の安全・安心を目的とした事業であったが、コロナ禍でイベントが少なくなってしまった児童たちの思い出作りにもなる事業となった。また、事業の実現に至ったことは、地域の安全・安心に大きく貢献できたと考えている。

令和4年度は、反対側の壁面に展示を計画しているが、今回の作品に加え、季節に応じた様々な作品を展示できるように事業を発展させていきたい。

コロナを乗り越えようイルミネーション事業

相模台団地自治会

1 背景と目的

新型コロナウイルス感染症の拡大に歯止めがかからず、自治会の行事・事業も休止状態にあるため、住人同士のコミュニケーションも十分に取れず、閉塞感のある毎日が続いている。

そこで、自治会が中心となり、地域を盛り上げ活性化する必要があることから、相模台団地の中央を横断する「中央通り」をイルミネーションで装飾することで、地域住民を元気づけ、コロナを乗り越える前向きな気持ちになってもらい、ひいては地域の活性化につなげることを目的とする。

2 事業内容と実績

団地の住人・子供たちが協力し、地域ぐるみで“手づくり”のイルミネーションを制作し、団地内の中央通路5箇所装飾した。

飾り付けは自治会員を中心に行い、12月1日に点灯セレモニーを開催した。

・イルミネーション点灯期間

令和3年12月1日（水）～令和4年1月22日（土）

午後5時～午後9時



3 成果と今後の展望

団地内外から好評の声をいただき、地域の活性化策としてイルミネーションは効果が高いと感じた。また、年末年始をまたぎ点灯したことにより、防犯の一助にもなった。

老若男女問わず、地域住民の協力により一体感を持ったイベントとなり、また、たくさんの方の温かい言葉や評価をいただき、当初の目的を達成できたと考えている。

令和2年度、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、イルミネーション展示のみにとどめているが、令和4年度以降はイルミネーションを核にイベント等を併設して冬季の団地事業に拡大したい。

相武台ウインターイルミネーション実行委員会

1 背景と目的

相武台地区では子どもから高齢者まで参加して楽しめる行事が冬場になると少なく、行事の企画が望まれている。

高齢化が進む相武台地区において、次代を担う子どもや親子で楽しめるイベントとして実施し、自治会加入促進、地域活動団体（自治会、商店街、消防団等）の連携強化、活動の担い手の育成、商店街の活性化、消防団員の加入促進を目的とする。

2 事業内容と実績

相武台団地を主会場として、その他4か所（相武台グリーンパーク、相武台駅前公園、サンベルジュ住宅、そあら）を電飾で飾った。

コロナ禍であったので、密を避けて、12月12日（日）に点灯式を相武台団地センター前広場にて行い、大勢の方々に参加いただき、JAZZバンド、相武台鼓笛隊、コーラスの演奏の後に、参加者からの掛け声で電飾を点灯した。

各地区、12月12日から2月26日までの間、事故もなく点灯することができた。



3 成果と今後の展望

自治会連合会のみならず、商店街や消防団と連携して実施し、地域連携の強化が図れた。特に今回は市境を越えて座間市の自治会及び商店街にも声を掛け、一緒に実施することができた。座間市の団体と共同作業をすることは、地域として長年考えてきたことで、ここでやっと実現でき、大きな一歩を踏み出すことができた。また、商店街の活性化にもつながり、消防団への関心を高めることができた。

南区内で最も高齢化率が高い相武台地区としては、次代を担う子どもや親子で楽しめるイベントとして地区の活性化が図られ、冬の風物詩として定着できるものと考えている。今回は商店街と消防団だけでなく、立地を活かした座間市の商店街等との連携は地域づくり、地域連携の強化に大きく寄与したものであり、ほぼ自立できた状態になったと考えられるので、今後の展開に期待している。

1 背景と目的

相武台地区としては、減少している子育て世代に少しでも「子育てがしやすい環境」となるよう、医療機関、相談窓口、子育てサロン等の交流機会の紹介等、子育てをするのに役立つ情報を発信・提供していくことが必要であると考えている。

高齢化が進む相武台地区では、高齢者向けの事業等は充実しているが、子育て世代に対しての情報発信が乏しいことから、当協議会において児童の見守り等の強化を図るとともに、少しでも子育てしやすい環境づくりを支援・推進するために「子育てマップ」を作成し、地区内の子育て世代に「住みやすい街」を発信していくことを目的とする。

2 事業内容と実績

子育てマップ 3,000部

地域のコミュニティの活性化を推進する手立てとして、子育てをする中で、悩んだり、困ったりしたときの行政窓口の紹介や、地域内の子育てに関する情報など、子育て世代を対象とした子育てガイドブックを地域の子育て支援策の取組として作成・配布した。

相武台地区にある幼稚園・保育園・小学校・子ども関連施設に世帯数分を届けるとともに、まちづくりセンターに配架、地域情報紙に子育てマップの発行記事を掲載した。



3 成果と今後の展望

まちづくりセンターに配架したことにより、転入及び母子手帳発行の際に手渡すことができ、さらに、地域情報紙を見て、窓口に取りに来られる方が大勢いた。

減少している子育て世代が少しでも子育てがしやすい環境となるよう役立つ情報を発信するため、持ち運びしやすく携帯できるサイズにした。地元の方に表紙のデザインを依頼して親しみやすいものとなった。また、子育てマップの情報を民生委員児童委員協議会のホームページと連携できるQRコードを載せるなどの工夫をし、従前のマップより、使いやすく実用的なものとなった。

今後、定期的な見直しや、配布先の拡大を検討していくということで、この事業がさらに充実していくことを期待している。

**令和3年度
南区 地域活性化事業交付金活動事例集**

編集

相模原市 南区役所

問い合わせ先

相模原市 南区役所地域振興課

相模原市南区相模大野5丁目31番1号

電 話 042-749-2135

F A X 042-749-2116